

NZK

日本全薬工業株式会社

郡山市安積町篠川字平の上1-1

(有)美津和薬品商会

本社 〒708 津山市井ノ口25 卸売センター内
TEL (08682) 2-7014

飼料添加物

高単位ビタミンAD₃E剤

Dawes ドウズADE

成 分

本品1g中

| | |
|-------------|-------------------------------------|
| ビタミンA油 | 50,000 I.U. (ビタミンAとして) |
| コレカルシフェロール | 5,000 I.U. (ビタミンD ₃ として) |
| 酢酸トコフェロール | 20 I.U. (ビタミンEとして) |
| プロピオン酸ナトリウム | 3mg |

特 長

- 1) ビタミンA・D・Eの粒子はそれぞれ特殊コーティングされているために、濃厚飼料に混合しても安定性がよく、しかも保存性に優れています。
- 2) 含有ビタミンは微粒子で、体内（腸管）吸収は速やかにおこなわれます。又、製品は均一になるよう製造されています。
- 3) 基剤は小麦粉使用のため嗜好性が良く、濃厚飼料に容易に混合できます。

[ゼンヤクの固型塩グループ]



〈一般用〉

〈グラステタニー様疾患予防用〉

グリーン鈴塩

鈴塩エム

〈肥育牛の尿結石症予防用〉

固型カウストン

ビタミン・ミネラル総合飼料添加剤

バイミルク

和牛 本県産のシンボルは、何と云つても千葉牛で代表される黒毛和種である。この牛は近世の頃から、役牛・畜牛・耕牛・役肉用牛とその用途と名称を変えながら全国に種牛を供給してきた。昭和二十九年頃には一千五百頭を算え、名実ともに全国一を誇ってきた。現在では三百頭を割る状況で、かつての雄姿をみることは出来ない。

ところが、この和牛には業界の内外から熱い期待が寄せられ、現在畜産の中では最も手厚い寵愛をうけている。この理由は牛肉が世界的に不足しているからである。わが国でも他の畜産物が殆んど過剰傾向にある中に、牛肉だけが不足しているからである。本県生産の枝肉の約六〇%を乳用牛が占めている。しかし酪農は計画生産中で大増産は望めない情勢にある。そこで和牛には国・県が集中的な助成を実施してその増殖を期待しているのである。それでも拘らず増えないのは何故であろうか。農村の過疎、兼業農家の増加といった社会環境の変化があつたとしても、和牛経営の生産性の低さが最も大きな原因ではなかろうか。和牛経営の迂回性、繁殖經營拡大の困難性等宿命的な課題もあるが、最も重要な課題は、和牛の特性を活かした経営に徹していくといふ事である。和牛には種牛と実用牛の二面があるが、両面共にこの事を痛

じて感じている。本県の和牛は増体に優れ、肉質に優れている。日本で最も優れた和牛であると信じている。種牛経営においても、肥育経営においても、本県和牛の特質を損うことがあってはならない。

乳牛 本県には、乳牛四千頭が二〇一九七の生乳を生産して、関西随一の酪農県を誇っている。わが国の副業的な酪農が僅か二〇数年間でこのように

ヨーロッパ並みの規模に成長したことは、世界に類例のない驚異的な成果である。また最近の生乳の需給緩和に対処するため見事に計画生産を達成した事は、わが国の酪農民の英知とたくましさをさまざまと見せつけたものである。昭和四八年の畜産危機には、低辺の階層が約一千戸淘汰をうけた。現在の農家は生き残りの戦士であり、近代設備を身につけた勇士である。

八〇年代に入り牛乳の容器が紙容器に替り、宅配から店頭販売になり、量販が

増すごとに生乳の産地間競争は次第に激化してきた。特に計画生産では、余乳

り豚肉の過剰傾向のために全国養豚經營

の一面があるが、両面共にこの事を痛

りたい。

豚 本県の養豚は、数においても質に

おいても後進県の域を出ない。一昨年よ

り豚肉の過剰傾向のために全国養豚經營

の一面があるが、両面共にこの事を痛

りたい。

このように各家畜部門は、牛肉以外す

べて需給緩和の状況にあり、生産調整

による。当然のことながら産地間競争は

熾烈となり、品質の改善、産地化が必須

の条件となつた。またニーズに即応した

流通の改善、輸入畜産物に対する対抗措

置、輸入飼料の値上がりに備えて自給率

向上も必要となつた。このように畜産は、

国内外の広い観点から長期的な対策を必

要とする時代になつた。従来のようつて生

産増強のみに専念する時代はすぎ、計画

生産、流通対策等のソフトの部門を併せ

て考慮することが必要となつた。

昭和五十六年度の畜産関係重点施策

岡山県農林部畜産課

総合振興、転作飼料作物物流促進パイロット（六地区）、飼料作物生産振興対策事業等を実施する。

二、家畜、畜産物の生産対策

① 肉畜の生産拡大

これから発展作目である肉用牛生産の強化、規模拡大を促進するための諸事業を中心とした生産振興対策を積極的に推進する。

① 肉用牛

資源の確保と中国山地農業振興の重点

施策として生産拡大を図るため、肉用牛振興地域において、中規模経営者を対象に生産から肥育に至る地域内一貫経営を推進する。肉用牛生産園地育成事業、里山山地を活用した山地放牧肉用牛緊急特別対策事業で百頭の放牧飼育奨励と具有牛貸付六十頭の実施。又高令者等肉用牛

飼育事業で市町村有百五十頭、農協有七十六頭の貸付を行う他、肉用牛集団育種

奖励四十三等を実施して、飼料生産基盤の整備や附帯施設整備を進める。

また、水田利用再編第二期対策の実施に伴い、飼料作物の水田転作による定着化と生産体制整備のため、自給飼料生産

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

② 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

③ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

④ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑤ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑥ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑦ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑧ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑨ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑩ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑪ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑫ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑬ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑭ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑮ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑯ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑰ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試験場…5

経済連畜産部…6

昭和五十六年度の試験研究の

畜産関係重点施策

昭和五十六年度の試験研究の

重点方向と主要課題

⑱ 家畜、畜産物の生産対策

昭和五十六年度事業計画

畜産会…8

経済連畜産部…6

昭和五十六年度重点施策

岡山県和牛試

その一 岡山県酪農試験場

技術を改善し、また、肉質については、バーカシャー種とその交雑種の産肉性を解明する。

○ 省資源、省エネルギー対策として、子豚保温技術の改善、山地放牧を前

提とした省力化技術、ウェイトストレーニングの利用などを検討する。

域農業複合化を推進する。

〔一〕 乳牛部門（四課題、十二項目）

○ 高能力牛の作出について、後代

検定済種雄牛の利用促進のための実証と、夏期受胎率向上のための繁殖技術の改善及び分娩間隔短縮要因の調査を行い、又、野外自然分娩技術についても検討する。

○ 高能力牛の飼養管理技術では、粗飼料の有効利用、地域に適した育成技術の改善、乳房炎の発生防止など合理的な生乳生産関連技術を取り組む。

○ 手作り乳製品については、地域に適した手作りチーズの製造について調査研究を行う。

〔二〕 草地・飼料作部門（七課題、十項目）

○ 粗飼料増産技術の確立は、現下の急務であり、地域適品種の選定、グラス類及びノシバの生産と利用技術、転換畑（湿田を含む）の効率的利用による高

効率的利用による高生産粗飼料の生産を検討する。

○ 流通を考慮に入れた粗飼料の貯蔵技術について、ホールクロップサイレージを主体に取り組む。

〔三〕 養豚部門（五課題・五項目）

○ 資質能力向上のため、人工授精

を図るよう努める。

一、試験研究の部門別取り組み

の方向と課題

〔一〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十二項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔二〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔三〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔四〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔五〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔六〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔七〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔八〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔九〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔十〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔十一〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔十二〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔十三〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔十四〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔十五〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔十六〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔十七〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔十八〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔十九〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔二十〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔二十一〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔二十二〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔二十三〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔二十四〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔二十五〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

〔二十六〕 地域農業複合化推進部門（三課題

十一項目）

牛窓町（農試主査・53～56、56～58）

及び落合町（酪農主査・55～58）におい

て、水稻・酪農・野菜の類型について、

畜産と耕種の結合関連技術を解明し、地

はじめに

大佐酪農は、昭和三六年にジャージー種三八頭が導入されたことにはじまり、以後、多頭化の推進、各種事業の活用などにより、飼養戸数二〇戸、飼養頭数三〇〇頭、年間出荷乳量九五〇tに達し、昭和五六年一月に二〇周年をむかえ、盛大な記念会が開催されました。

阿新農業改良普及所

一、地域の概況

大佐町は、岡山県の西北端に位置し、標高三〇〇～六〇〇mで傾斜地が多く、年平均気温二・七℃、年間降雨量一八四〇mmの寒冷地です。農業粗生産額の割合でみると、畜産四〇・四%でそのうち酪農は一九・一%を占めています。

二、大佐酪農の歴史

(一) 酪農のはじまり

(昭和三六年～三八年)

当時、阿折郡一帯は和牛振興地域でありましたが、大佐町は、将来を考え陳情を重ねた結果、ジャージー集約酪農振興地域の指定を受け、昭和三六年にジャージー種三八頭がはじめて導入され、同時に大佐町農協酪農部も発足し、ここに大佐酪農の礎が築かれたのです。

(二) 第一次発展期

(昭和三九年～四八年)

昭和三九年にホルスタイン種が導入され以後漸次増頭され、現在ではほとん

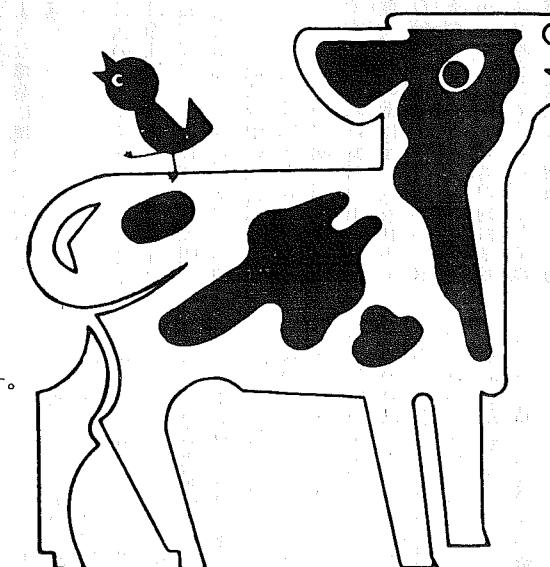
普及所便り

大佐酪農20周年をむかえて

第1表 ジャージー種とホルスタイン種の推移

| 年 月 | ジャージー種 | | | | ホルスタイン種 | | | | 累 計 | | | |
|--------|--------|----|----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 戸数 | 経産 | 育成 | 小計 | 戸数 | 経産 | 育成 | 小計 | 戸数 | 経産 | 育成 | 合計 |
| 36. 10 | 24 | 0 | 62 | 62 | | | | | 24 | 0 | 62 | 62 |
| 37. 8 | 25 | 18 | 55 | 73 | | | | | 25 | 18 | 55 | 73 |
| 38. 2 | 28 | 90 | 14 | 104 | ⑤ | ⑥ | ① | ① | 28 | 90 | 14 | 104 |
| 39. 2 | 26 | 81 | 18 | 99 | | | | | 26 | 81 | 18 | 99 |
| 40. 2 | 27 | 79 | 26 | 105 | 13 | 21 | 2 | 23 | 41 | 100 | 28 | 128 |
| 41. 2 | 29 | 75 | 28 | 103 | 16 | 24 | 14 | 36 | 43 | 99 | 42 | 141 |
| 42. 2 | 29 | 82 | 26 | 108 | 15 | 47 | 12 | 59 | 44 | 129 | 38 | 167 |
| 43. 2 | 18 | 88 | 25 | 113 | 18 | 52 | 24 | 76 | 36 | 140 | 49 | 189 |
| 44. 2 | 18 | 75 | 16 | 91 | 18 | 71 | 39 | 110 | 36 | 146 | 55 | 201 |
| 45. 2 | 15 | 72 | 15 | 87 | 29 | 72 | 72 | 144 | 35 | 144 | 87 | 231 |
| 46. 2 | 15 | 50 | 12 | 62 | 27 | 94 | 70 | 164 | 30 | 144 | 82 | 226 |
| 47. 2 | 8 | 30 | 4 | 34 | 26 | 109 | 55 | 164 | 27 | 139 | 59 | 198 |
| 48. 2 | 7 | 20 | 4 | 24 | 24 | 104 | 54 | 158 | 24 | 124 | 58 | 182 |
| 49. 1 | 3 | 5 | 1 | 6 | 23 | 121 | 102 | 123 | 23 | 126 | 103 | 229 |
| 50. 1 | 2 | 6 | 0 | 6 | 23 | 151 | 73 | 224 | 23 | 157 | 73 | 230 |
| 51. 2 | 2 | 6 | 1 | 7 | 22 | 151 | 76 | 227 | 22 | 157 | 77 | 234 |
| 52. 2 | 2 | 7 | 0 | 7 | 22 | 187 | 80 | 267 | 22 | 194 | 80 | 274 |
| 53. 2 | 1 | 5 | 0 | 5 | 20 | 212 | 85 | 297 | 20 | 217 | 85 | 302 |
| 54. 2 | 2 | 2 | 0 | 2 | 20 | 220 | 68 | 288 | 20 | 222 | 68 | 290 |
| 55. 2 | 2 | 2 | 0 | 2 | 20 | 223 | 72 | 295 | 20 | 225 | 72 | 297 |

乳は国産 エサは全酪



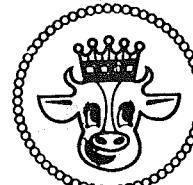
団結は力！

系統利用は団結の象徴

最高の水準をゆく全酪連乳用子牛育成体系
(乳牛の飼料は専門の全酪連におまかせ下さい)

主要取扱品目

専管、増産ふすま。外国大麦飼料。
カーフトップ。脱粉飼料。カーフスター。
幼牛用、搾乳用配合飼料。
その他酪農用飼料資材全般。
市乳、バター、チーズ、練乳、粉乳。



日夜酪農民の利益増進に奉仕する酪農専門農協／
全国酪農業協同組合連合会

どがホルスタイン種に更新されておりま
す。また同時に、隣の勝山町まで運んで
いた生乳をホハヨー乳業に出荷すること
にし、乳質低下による損失も少なくなり、
大いに改善されました。また、大佐町酪
農振興協議会も結成され、町全体が一体
となり、酪農家の勧誘と多頭化に努力し、
戸数は漸次減少したが、多頭化による規
模拡大は順調に進み、昭和五五年には戸
数二〇戸、飼養頭数二九七頭、一戸当たり
平均飼養頭数二五頭となっています。

乳牛の登録事業についても、昭和四六年
年に優良保留下六頭が導入されて個体改
良意欲も高くなり、登録業務も軌道に乗
り、昭和五三年の第一回岡山県スプリン
グショーにおいて高成績をおさめて以来、
年に優良保留下六頭が多くなり、一頭
当たり平均乳量五〇〇kg以上という
目標は、昭和五三年に達成され、酪農近
代化計画の認定と同時に乳牛の増頭を図
るため、家畜導入事業の推進が行われま
した。

その他、緊急粗飼料増産総合対策事業
による機械、サイロの整備、制度資金利
用による大型畜舎の建築、バルククーラ
ー設置と集乳の合理化などにより、大佐

酪農は著しい前進をみました。

(四) 充実期（昭和五四年～現在）

昭和五四年度には、生乳需給の均衡を
図るために始まった生乳の計画生産と取
り組まるを得なくなりましたが、各種
事業を有効に活用し、氣密サイロや常農機
械施設の導入を行ない、生乳の生産費の
低減を図るよう努め、経営の質よりも
経営の質に重点をおき、対処してきました。
それと同時に、生産者自から生乳消費
拡大運動を当農婦婦人部が中心となり、
整備の積極的な推進、土地集積による飼
料作物の集団栽培、省力管理を加味した
夏期放牧などがおこなわれています。ま
た、全酪農家には二〇～三〇才代の若い
後継者がおり、酪農に対する町体制も整
つており、大佐酪農の将来には明るい材
料が揃っています。今後は「生産効率の
高い酪農」を最大の目標とし、広大な山
林原野の活用により経営安定に努めてお
ります。

三、おわりに

青年の主張

私の農業観・仕事・夢

吉永町二二一日会 藤原博志

私は、和氣郡吉永町三国というところで酪農を営む農業青年です。酪農経営に携わって早四年目の春が過ぎました。私が就農した当時は、まだ生牛生産調整も始まっておりませんでした。しかし、一年後には生産調整が始まり、稻ワラ、購入飼料、各種生産資材の高騰と、酪農を取り巻く環境が悪化してきました。そして、不確実性の時代といわれ、どのような人の話の冒頭にも「今日は不確実性の時代であり、高成長を遂げた日本経済は、今や内面の質の豊かさを目指す安定成長時代に突入しました。」という言葉が、耳にタコができる程繰り返されました。今までのよう体を動かしていれば儲かった時代は去り、頭も使わなければ生き残れない時代がやってきました。しかし、こうした時代を徒らに憂つります、この現実を受け止め、私たち農業後継者と呼ばれる者たちが、自らの感覚で明日の農業を造り上げることが出来る今こそが、一番良い時代ではないでしょうか。

ところで、近年、農業も企業的感覚を身につけるべきだ、という経済界の農業批判が高まっています。企業的センスを持ち、日本の農業も国際競争力を身に付けて、といわれています。しかし、安いからといって輸入に頼るべしでどうか。これ程自然に恵まれて日本の食糧自給率が、僅か三四%というのは恥しい限りです。石油産出国が国力を注いで砂漠を緑に変えるようとしている時、日本は水田再編利用の名の下に、農地を荒廃させています。一度農地を遊ばせると耕作意欲がなくなるという心理を忘れないでほしいものです。

農業とは人が生きていくための食糧を確保するという、最も基本的ななくてはならない産業です。自らの食糧は、自らの手で生産すべきではないでしょうか。



造成中の圃場

技術のページ サイレージ用トウモロコシの栽培について (五十五年度の反省と栽培の要点)

普及園芸課 田渕真一

飼料作物の栽培も、生草収量から乾物及び栄養収量へと、良質粗飼料生産に変り、サイレージ用トウモロコシの栽培が各地で普及してきた。ところが、昨年は冷夏・長雨の被害により、減収となり、なかには、収穫皆無となつたほ場も見受けられた。そこで、昨年の状況反省し、これらの栽培の参考としたい。

一、昭和五十五年度の反省

(一) サイレージ用トウモロコシの前作は、一般にイタリアンライグラスが多く、その生育状況や、収穫時期が直接トウモロコシの播種期に影響するのである。

昨年は、春先の気温の上昇が遅れ、それが低温で推移したため、生育は遅れ、その上に収穫時期が雨期に入り、収穫作業の遅れを助長した。そのことが、トウモロコシのは種作業の遅れにつながり、成育及び収量に影響した。特に、5月下旬以降には種したほ場に被害が大きかつたようである。

(二) 4月中旬頃迄には種されたものは、は種作業は順調で、初期生育も良

好であったが、5月下旬以降には種したものは、は種期が雨期に入り、ほ場を過湿状態で耕起したため、排水不良を助長され、この現実を受け止め、私たち農業後継者と呼ばれる者たちが、自らの感覚で明日の農業を造り上げることが出来る今こそが、一番良い時代ではないでしょうか。

私はこのよろ農業に携わっていることについて説いています。

（三）栽培密度は、氣根の発生に影響するようですが、2粒点播の場合には、1粒点播よりも、発芽不良又は不能のほ場が多く、なかには、4~5回まき直したが発芽しなかったため、栽培を断念したほ場も見られた。

（四）栽培密度は、氣根の発生に影響するようで、2粒点播の場合には、1粒点播よりも個体当たりの氣根の発生本数が少なかった。特に昨年は、湿害により、深根は根腐れを起し、氣根によってかろうじて支えられていたものが多く、そのことが一畠耐湿性の弱い作物であつて、排水の必要とする煙草作物である。従つて、よほど排水のよいほ場を選定しないと多収を得ることが出来ない。そのためにも、転換烟などに栽培する場合は、暗きよ排水溝の設置などを考えたい。

二、技術対策

（一）トウモロコシは、飼料作物のうちで、湿害による根の衰弱、生育数の減少から、雌穗の充実は悪く、着粒数の減少、雌穗の矮少、不稔穗の増加、子実の充実不良などが見られ、生草、乾物、栄養収量はともに減収となつた。

（二）栽培密度は、一般に早生八、〇〇本、中生七、〇〇〇本、晩生六、〇〇〇本で、1~2粒点播とされているが、気温による根の衰弱、生育数の減少から、雌穗の充実は悪く、着粒数の減少、雌穗の矮少、不稔穗の増加、子実の充実不良などが見られ、生草、乾物、栄養収量はともに減収となつた。

（三）栽培密度は、一般に早生八、〇〇本、中生七、〇〇〇本、晩生六、〇〇〇本で、1~2粒点播とされているが、気温による根の衰弱、生育数の減少から、雌穗の充実は悪く、着粒数の減少、雌穗の矮少、不稔穗の増加、子実の充実不良などが見られ、生草、乾物、栄養収量はともに減収となつた。

（四）栽培密度は、一般に早生八、〇〇本、中生七、〇〇〇本、晩生六、〇〇〇本で、1~2粒点播とされているが、気温による根の衰弱、生育数の減少から、雌穗の充実は悪く、着粒数の減少、雌穗の矮少、不稔穗の増加、子実の充実不良などが見られ、生草、乾物、栄養収量はともに減収となつた。

（五）覆土の厚さは、鎮圧後で2~3cmが良い、1cm以内では欠株が多くなり、また、4cm以上になると発芽が遅れ、齐性が悪くなるとされている。特に、土壤湿度が高い場合には、覆土が厚いと、発芽時に湿害を受けやすいので注意すること。

（六）施肥については、窒素過多の栽培は、トウモロコシが軟弱となり、倒伏の原因となる。また病害の抵抗性も少くなるので、窒素、磷酸、カリシーム、マグネシウムの5要素のバランスを考えた施肥が必要である。

以上、昨年の生育状況から、サイレージ用トウモロコシ栽培の技術対策について述べたが、排水のよいほ場の選定と、灌漑による深耕、鉢底層の破碎など土壤の透水性を高める工夫が必要である。

（三）は種期は、昨年の状況から見て、前

年サイレージ体系をめざしました。デントコーンを現在三・五mに作付けしていますが、今後は良質のコンサイレージ栽培に関する技術の研究、連作障害への対策を考えたいと思います。例えば、デントコーンの連作障害に対する対策としては、永年牧草を三年程作り、計画的に土地を休ませる方法を取らうと思いますが、現時点では造成三年目であり、収量も一〇a当たり七〇〇〇kgを確保できるまでに土地が肥えてきました。また来年度は稻ワラにかわる乾草貯蔵を、一・五mの永年牧草を作付けすることで乗り切りたいと考えています。

現在おこなっている土地の造成は、自分で一七つのブルドーザーを購入し、自分で造成していますので燃料代やら維持費に経費がかさみます。しかし年間一・〇ha程の、斜度が一〇度以上ある放牧地を、ハーベスターが利用可能な斜度にし、灌溉の良い造成地にかえております。おかげで昨年の長雨の影響を受けることなく安定した収量が得られました。年間五〇gのサイロに一本づつ多く収穫できる二・五m、その他造成中の飼料畑一・五haで、来年度は放牧地四・五haの内の計五〇ha、経営地は放牧採食草地四・五ha、飼料専用畑三・五ha、水田転換畑二・五ha、その他造成中の飼料畑一・五haと一・〇ha程の栗園の飼料畑転換を計画中です。就農時は飼料専用畑は一・五ha程度で、その他は全て放牧用地でした。来年度は放牧地四・五haの内の一・五haと一・〇ha程の栗園の飼料畑転換を計画中です。就農時は飼料専用畑は一・五ha程度で、その他の放牧用地で、自給飼料の増産がまず初めてに取り組むべき問題であると考え、五年間で一・五haから七・五haと五倍の飼料基盤を確保する計画をたてました。そして機械力の再整備と貯蔵施設の増強による通年サイレージ体系をめざしました。デントコーンを現在三・五mに作付けしていますが、今後は良質のコンサイレージ栽培に関する技術の研究、連作障害への対策を考えたいと思います。例えば、デントコーンの連作障害に対する対策としては、永年牧草を三年程作り、計画的に土地を休ませる方法を取らうと思いますが、現時点では造成三年目であり、収量も一〇a当たり七〇〇〇kgを確保できるまでに土地が肥えてきました。また来年度は稻ワラにかわる乾草貯蔵を、一・五mの永年牧草を作付けすることで乗り切りたいと考えています。

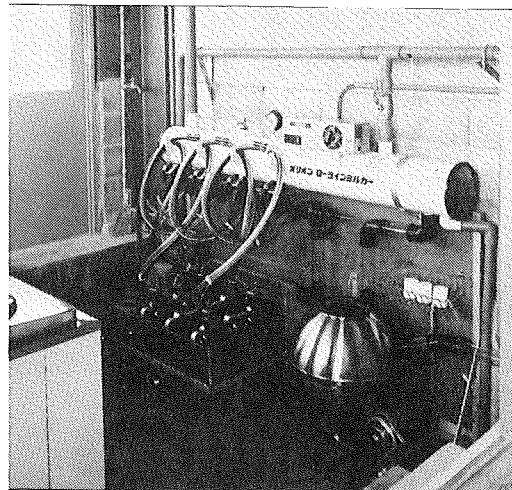
オリオン ローラインミルカー

ローラインだけが成し得る低真空圧搾乳

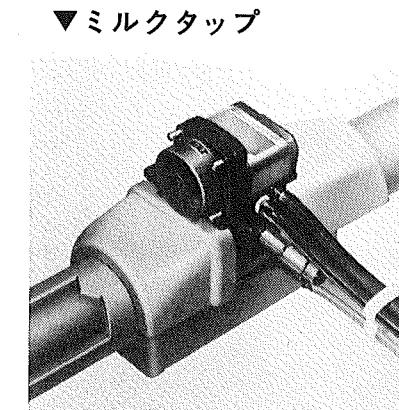
PML-51S-A型

三大特長

1. 安全な搾乳真空圧 31.5cmHg
2. 安定した搾乳真空圧
3. 二重構造のワンラインパイプ方式 (特許出願中)



◀処理パネル



▼ミルクタップ



オリオン機械株式会社

営業本部 東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目25-5 TEL (03) 341-5811
本社・工場 長野県須坂市大字幸高246 TEL (02624)5-1230
岡山営業所 岡山市清輝橋3-2-8 TEL (0862)26-0136

酪農畜産機器 総合商社



株式会社 小 六

| | | |
|-------|----------------|-------------------|
| 本 社 | 岡山市福成2-14-23 | (0862) 63-1221(代) |
| 落合営業所 | 真庭郡落合町上市瀬165-2 | (08675) 2-3364 |
| 金川営業所 | 御津郡御津町金川337 | (08672) 4-0143 |
| 津山営業所 | 津山市志戸部712 | (08682) 2-1561 |

ORION

トウモロコシ、秋作麦、
イタリアンを組み合わ
せた輪作体系の一例

酪農試験場 西谷公志

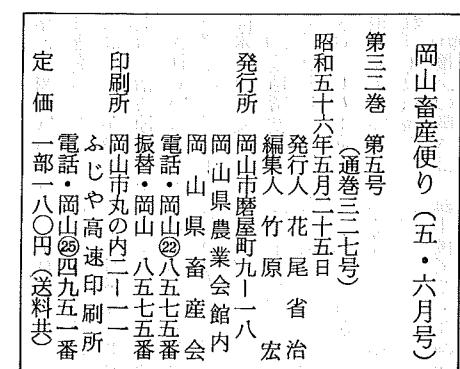
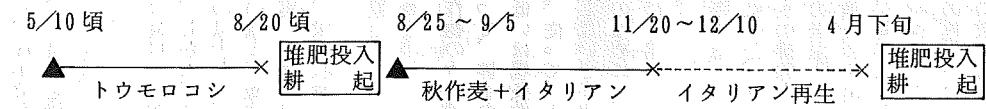
限られた飼料畠から高収量を得て、飼料の自給率を高めるためには効率的な輪作体系が必要である。そこで、当場で行っている体系の一例を紹介する。なお播種期及び刈取時期は真中部を基準としている。

具体的な方法は表に示すとおりであるが、トウモロコシを五月上旬に播種し、八月二十日頃に刈取った後、秋作麦とイタリアンを混播して十一月中旬～十二月上旬に刈取り、更に翌春再生したイタリアンを四月下旬に収穫するものである。アール当たりの生草収量は、おおむねトウモロコシが六七、秋作麦+イタリアンが五六、翌春のイタリアンが四五で計十五十七が期待できる。

栽培上の注意として、特に秋作麦は播種適期が八月二十日から九月五日と限定されるため、播種期を厳守すること。また、肥料要求量がトウモロコシ並みに多い点を考慮する必要がある。

高栄養粗飼料生産のための輪作体系の一例

| 草種 | 品種 | 播種期 | 栽培概要 | 刈取時期 |
|--------------------|-------------------------|---------|---|--|
| トウモロコシ | タカネワセ、交3号、パイオニアA号などの早生種 | 5月20日頃 | 6,000～7,000本/10a N P ₂ O ₅ K ₂ O 基肥 12 12 12 kg/10a 追肥 5 - 5 | 黄熟期 おおむね8月20日頃 |
| 二条大麦 + イタリアンラ イグラス | 西海皮24号、成城17号などの早生播 | 8月25日から | 麦 7 kg/10a イタリアン 2 ヶ 混合して散播又は麦条播 イタリアン散播 N P ₂ O ₅ K ₂ O 基肥 12 12 12 kg/10a 追肥 5 - 5 | 大麦の乳熟期 おおむね11月中～下旬乳熟期に達しない場合は12月10日までに刈取る |
| | ワセユタカ ワセアオバ | 9月5日まで | | 翌春のイタリアンは出穗期に刈取る おおむね4月下旬 |



◇今号は岡山県畜産課の本年度行政施策の概要を紹介しました。併せて、県試験場の重点研究課題の紹介（養鶏試験場は七月号）、また経済運及び酪運の事業計画を紹介しました。皆様の参考になれば幸いです。

◇今年も冷夏だという長期予報がでています。冷夏の前触れでもないでしょうが、北海道では異常低温のため放牧牛の死亡事故がでて不安を搔き立てられます。このような予報こそは決してもらいたいものです。決して、誰も気象局を悪くはいませんから。

あとがき